

NCS #5 Magazine



Interview
WCM
坂井あづみ
(後編)

東京チェスフェス
ティバル 2022他

特集:

ジャパンオープン2022

[自戦記] IM 小島慎也

Tournament Report

03 特集

ジャパンオープン2022

04 [参加者レポート] 「緊張」塩見亮

11 [優勝者自戦記] 両岸の攻防 IM 小島慎也

13 大会レポート 東京チェスフェスティバル2022 他

15 訃報：権田源太郎さん

Interview

16 WCM 坂井あづみさん (後編)

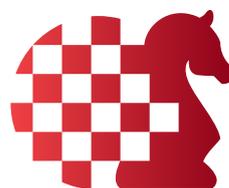
18 遠藤秀馬さん

20 タクティクス・ジム 05 ディスカバードアタック 山田明弘

22 名プレイヤーから学ぼう vol. 4 José Raúl Capablanca 山田弘平

28 チェス大会 in アメリカ NO.63 上杉賀子

31 Chess in Japan Nagoya Open 2022 Tournament Report Scott, Tyler



National
Chess
Society of
JAPAN



Tournament
Report
大会レポート

ジャパンオープン2022





FM山田弘平

参加者レポート
塩見 亮

「緊張」

緊張感あふれる大会だった。

——そう書くと、当たり前じゃないか、と言われるかもしれない。

ジャパンオープンといえば、JCA時代から続く恒例のビッグトーナメントで、増えてきたとはいえ日本ではまだ少ないFIDE公式戦のひとつ。そこに参加するのだから、緊張して当然ではないか、と。

しかし今回は、それだけではない何かがあった。11月3日の朝、PiO（蒲田・大田区産業プラザ）2階にある特別会議室は、これから始まるゲームへの期待とともに、これまでとちょっと違った、張り詰めた空気で満たされていたのである。

世界チャンピオンCarlsenのトー

ナメント棄権に端を発したHans Niemannのチート疑惑。要するに、トップGMが試合中にコンピュータの指し手をカンニングしたのではないかというわけだが、このスキャンダルが勃発したのが約2ヶ月前のこと。

さらに将棋界でも、直前の10月28日、A級順位戦で佐藤天彦九段が「マスク不着用による反則負け」になるという、衝撃的なニュースがあったばかりだった。

ジャパンオープン初日を迎えた選手も運営スタッフも、おそらく全員がそれを知っていたはずである。奇妙な緊張感は、そんな状況から生まれたものだったろう。

午前10時半、大会スタート。

濃密な4日間を、7つのラウンドごとにハイライトで振り返っている。

第1ラウンド

スマートフォンは電源を切ってカバンに入れる。試合中はそのカバンを会場外に持ち出してもいけない。

それは当然だが、今回は机の上に置いたハンカチやお菓子の袋まで、アービター（審判員）たちがチェックして回っていた。

これは強調するが、もちろん運営スタッフは今回の選手たちの不正を疑っていたわけではない。

将棋の反則負け事件では、佐藤天彦九段が事前に注意を受けず「一発アウト」になったのだが、この対応への批判も集まっていた。佐藤九段本人も判定を不服として将棋連盟に「不服申立書」を提出するに至っている。（これがジャパンオープンの2日前！）。

NCS運営のみなさんは、「やるべきことをしっかりやらなければ」というプレッシャーをいつも

以上に感じていたのではないだろうか。

どちらかという、選手よりもアービター側に緊張感がある。それが、あの奇妙な空気の正体だったのかもしれない。

緊張感は選手にも伝わり、大きな番狂わせが起こってもおかしくないと思われたが、1Rの上位陣は着実に勝利を重ねていった。4番ボードの向井裕之(1716)ー山田弘平(2172)の34手目の局面がこちら。選手名の右の数字はFIDEレーティングを示している。

Mukai, Hiroyuki
Yamada, Kohei



レーティングでは山田が400以上上だが、白の向井も善戦。ビショップ対3ポーンという評価の難しい駒割りになっている。

ここで山田の

34...Ra7!? が怪しい誘いの一手だ。白は

35.Rd6? としたくなるが、これが罠。黒は35...Rba8と守るのではなく、

35...Rab7! とbファイルにルークを重ねるのが狙いだった。

36.Raxa6とナイトを取れる



塩見亮

が、36...Rxb2+ 37.Ka1 Rxc2で白は收拾がつかなくなる。

実戦は36.Nd1と守ったが、36...Nb4と躍動し黒が勝ち切った。山田の格上らしい実戦的な手が印象に残る。

第2ラウンド

1R、2Rと順当な結果が続く中、上位陣で初めての敗北を喫したのは……。

残念ながら筆者であった。

Kinoshita, Akira
Shiomi, Ryo



図は51.Qg6と入れられたところ。黒はルークアップで必勝のはずだが、具体的な勝ちが見えず、残り時間が切迫してパニックに陥る。

51...Kg8?? 51...Re7などとしてお

けば問題なかった。

52.Rxh6 Rd8?? 悪手の後には悪手が続く、という好例。

53.Qh7+ Kf7 54.Ng5+ Ke8
55.Re6+ Kd7 56.Qxg7+ Kc8
57.Rc6+ 1-0

で一気にチェックメイト。坂道を転がり落ちるような負け方であった。(52...Be5などとしておけばまだドロー)

塩見は3R以降、もがいたものの、YouTubeで配信されるボードには一度も上がれないという残念な結果に。

それはそうと、NCS大会のゲームがYouTubeで初めて配信されたのが、ちょうど1年前、このジャパンオープンだったという。

「まだ1年しか経ってないの？」と思う方も多いのではないだろうか。

この1年間でNCSチャンネルがいかに急激に成長し、配信コンテンツが充実してきたかということである。



IM小島慎也

第3ラウンド

初日を無事に連勝した上位陣同士が激突。

ゲームもますますハイレベルになってくる。

Shioguchi, Tatsuya
Kojima, Shinya



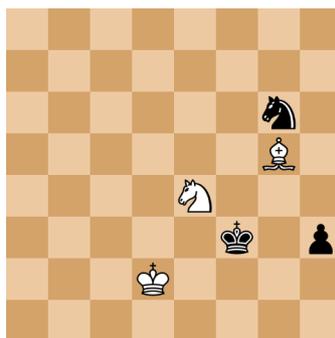
汐口達也(1950)ー小島慎也(2330)
戦の中盤のポジションから。

IM小島に対し、汐口が純粋なポーンアップ。白は特に怖いところはなく、悪くてもドロ、勝ち切

れるかどうかという局面である。

しかしこの後、小島はうまくポーンを交換していき、汐口は勝ちが遠のくとともに、残り時間もゼロに近づいていく。

そして、小島が60...h3とポーンを進めたところ。



61.Nf2?? ここは61.Ke1!が唯一の受けだった。61...Kxe4 (61...h2なら62.Nf2)とナイトを捨てても62.Kf2とhポーンを止めなければならない。

61...Kxf2 62.Be3+ Kg2 0-1

白はまさかの逆転負け。時間のないうち、状況の変化に正しく対応するのはいかに難しいことか。

一方の小島は、苦しい状況になりながらも、相手にプレッシャーをかけ続ける強さが光った。

第4ラウンド

大会中盤を迎え、3連勝はTran, Thanh Tu、小島、山田、大塚翔生、長瀧航太の5人に絞られている。

Yamada, Kohei
Tran, Thanh Tu



シシリアンの出だしから、白が着実に優位を広げている。

23.c4! 山田は自分のキングに近いポーンを力強く突き出した。YouTube解説のIM南條遼介も推奨していた一手だ。

23...Nc7 24.Bb4! f8のルークが逃げるとf7のポーンが落ちて突破されてしまうため、

24...Ne8 とTuはエクスチェンジを捨てたが、

25.Bxf8 Rxf8 26.Qxh4 となり、白がはっきり勝勢となった。

このゲームは山田自身も「ベストゲームのひとつ」と語っているので、どこかで自戦解説などが見られる機会もありそうだ。

そのときはぜひ、実際に駒を動かして一局全体を鑑賞してほしい。華麗なコンビネーションがあるわけではないが、相手の狙いを防ぎながら、小さな優位を徐々に拡大していく、それが本当の強者のチェスなのである。

もうひとつの全勝対決、小島—大塚戦は、大塚が中盤で若さあふれるエクステンジ・サクリファイスを取行するも、これが疑問。ていねいに受けきった小島の完勝となった。

小島にとって、新鋭の大塚は最近続けてポイントを落としている相手である。正直ホッとしたことだろう。

第5ラウンド

3人の4連勝のうち直接対決となったのが長瀧—小島だった。

最後はあまり見ないポジションに。



黒が37...f3としたところ。



石塚美来

白のナイトがe4でなくe3にでもいればドローが望めるが、この場合はQh3~Qg2#という単純な狙いを防ぐことができない。

4連勝スタートだった長瀧は、残念ながらここから悔しい3連敗となった。しかし、2日目からはずっと上位ボードで闘い続け、強烈な印象を残したことはまちがいない。

さて、当然ながら、熱戦が繰り返されているのは上位ボードだけではない。

このあたりで、配信には乗らないようなゲームにも目を移してみよう。

Tanaka, Satoshi
Ishizuka, Mirai



8番ボードの田中智(1991)—石塚美来(1719)戦から。

24...Re4! 端にいる白クイーンを攻撃しながら中央を制圧する力強い手。

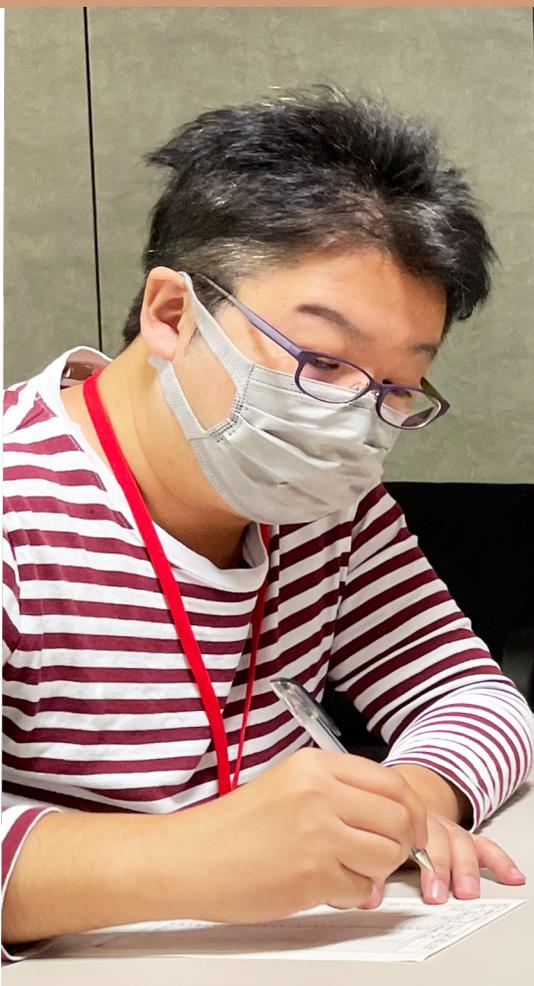
25.g4 白はやむなくポーンで守るが、キングまわりが弱くなった。

25...Qd7? ここは25...Qf3!と侵入するチャンスだった。Ne1~Qg2#の狙いが厳しい。

石塚も当然それは考えたが、26.Bd5と守られ、26...Ne1のときに27.Bxe4と取られるとビショップがg2を守っているので27...Qg2+とできないからダメ、と判断したという。

実際は27.Bxe4のとき冷静に27...Qxe4と取り返せば、依然として...Qg2#の狙いがあるので28.Rxe1とルークを切らなければならず、以下28...Qxe1+ 29.Kg2 cxd4で黒が勝勢だった。

チャンスでもう一步踏み込みが足りず、惜しい敗戦となった石



坂井延寿

塚。しかしこれで逆に「闘志がわいた」そうで、残り2試合はレーティング上位から勝ち、ドローと続けて、4pで今回の女子選手最高位となった。真剣勝負の中で、やる気と調子を取り戻していったのである。

Ogasa, Seiichi
Sakai, Enju



こちらは11番ボードから小笠誠一(1666)ー坂井延寿(1895)戦。

白の小笠は何度か必勝の局面があったようだが、キングにa5まで逃げられてこの局面に。最後は時間切迫の中、

59.Qa8?? Qh4# 0-1

というきれいな1手メイトの幕切れ。小笠には残念な結果となった。

耐えてチャンスをものにした坂井延寿は残り2試合も連勝し、5pで7位に。このところの大会でも安定感を発揮している印象だ。

第6ラウンド

再び優勝争いに話を戻そう。

トップボードでは、いよいよ二人に絞られた全勝同士のマッチアップとなった。

Kojima, Shinya
Yamada, Kohei



白の小島がルークを捨て、パペチュアルチェックのドローに持ち込もうとしたところ。ここで事件が起きた。

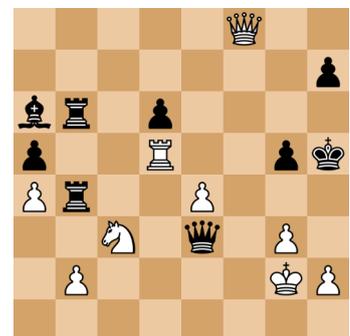
37...Kh6?? 両選手とも、g8とh6、どちらに逃げてもドローだと考えていたようだ。

37...Kg8は一応38.Rf2も考えなければならぬので、山田は「より安全に思えた」というh6にキングを逃がす。

小島はあらためて局面を見て、黒キングが意外に危険であると感じた。

時間切迫の中、メイトを探る。

38.Qf8+ Kh5 39.Rd5+ g5



40.g4+? 小島の直観は間違っていたが、最後に詰めを誤った。

40...Kg6! これで黒キングはなんとか逃れている。

結局、最終的にはパペチュアルチェックのドローに落ち着いた。

実は、40.g4+のところでは40.Qf7+!とすれば黒キングはつかまっていたのである。

40...Kh6 41.Qf6+ Kh5と、クイーンをf8からf6まで移動しておいてから42.g4+!とすれば黒キングはg6に逃げられないという仕掛け。

以下、42..Kxg4 43.Qf5+ Kh4 44.Qxh7+ Kg4 45.h3+ Kf4 46.Qf5#とチェックメイトになるところだった。

結果には表れない、大きなドラマが潜んでいたゲームである。

第7ラウンド

最終ラウンド。上位の組み合わせは
1番ボード 小島 (5.5p) -Tu (5p)
2番が山田 (5.5p) -東野 (5p)
3番が大塚 (5p) -田中 (4p)
となった。

6Rのドラマで星を分けた小島と山田のどちらか優勝となるか、それとも5ポイント勢の逆転があるか？

小島の「ドラマ」は、7ラウンドに入っても続いていた。

Kojima, Shinya
Tran, Thanh Tu



47.c4?? 優勢となった白の小島はポーンをc5まで進めて安全な勝ちを目指したが、その一瞬、大きなスキが生まれた。

47..Rdg7?? しかし黒のTuもチャンスを逃す。

ここでは必殺の47...Rxd6!があった。48.Qxd6 Rxc2+! 49.Rxc2 Qxd6+でクイーンが落ち、黒の逆転勝ちとなるところだったのだ。

その後も両者にミスがあり、最後はクイーンを作り合ってドロー。



CM Tran, Thanh Tu

山田-東野もドローに終わった。Tuは勝っていればタイブレークで山田を上回って優勝していたはずで、痛恨の見逃しと言えるだろう。

それにしても47...Rxd6!は、手筋としてはある意味パターンのものである。もちろん時間切迫があったにしても、小島・Tuの両者が見つけれなかったとは、意外ではないだろうか？

大会の冒頭から漂っていた、不思議な緊張感。それが蓄積した疲れとなって、最後の最後に影響を及ぼした……というのは考えすぎだろうか。

ともあれ、命拾いをした小島が、同じ6pで並んだ山田、大塚とのタイブレークを制して、2年連続のジャパンオープン優勝となった。

実は、小島本人は大会前に他人から指摘されるまで、前年の優勝者であることを忘れていたという。昨年のジャパンオープンで優勝し、チェンナイオリンピックの代表権を獲得した記念すべき大

会であるにもかかわらず、である。

もしかすると、先ほどのYouTubeの話と同様に、オリンピックの権利獲得はもっと前のできごとだと感じていたのかもしれない。

時間の感覚を狂わせるほどに、いろいろなことが詰まっていた1年間だったのである。

最後にもう1局だけ紹介しよう。

3Rで小島から金星を挙げそこねた汐口は、その後苦戦し、最終7ラウンドは11番ボードで、2011年生まれの大塚秀馬(1248)と戦っていた。

Shioguchi, Tatsuya
Endo, Shuma





左から、CM Tran, Thanh Tu、FM 山田弘平、IM 小島慎也、大塚翔生、東野徹男

白が優勢となったが、黒の遠藤は「ひきわけ…」とドロオファーを繰り返しながら必死に粘る。

そして汐口が49.Qxc7と指したのが図の局面だが、これがミスだった。

49...Rd7! 49...Rxd3とビショップが取れるが、それだと50.Qh7#でメイトになってしまう。

一度49...Rd7でクイーンに当てたのがうまい手で、クイーンを7段目からそらせば、安全にビショップが取れるというわけだ。(50.Qc6とa8のルークに当てようとしても50...Bd5+のフォークがある)

最後はむしろ黒優勢となったが、再三ドロオファーし続けた影響か、また「ひきわけ…」と言ってしまい、結局ドロに落ち着いた。

それでも、遠藤秀馬君は大会最年少で堂々の3.5p。今後が楽しみでならない。

こうして4日間の熱戦はフィニッシュ。

いつも以上のプレッシャーの中で運営にあたったアービターやス

タッフのみなさんには頭が下がる思いである。

選手の側も、「いつも以上にしっかりした運営ですばらしかった」という感想もあるだろうし、「必要以上に厳しすぎたのでは」と感じる人も、もしかしたらいるかもしれない。今回で言えば、アービターが選手に注意を与えるタイミングに不服を表明した選手もいたという。

全員にとって完璧、というのはなかなか難しい。

でも、選手も運営側も、感じたことを素直に発言し、議論を通して発展していけたらいいと思う。

「自由に意見が言える」ことが、NCSの何よりもいいところなのだから。

ジャパンオープン2022

Open

1位	IM 小島慎也	6.0/7p
2位	FM 山田弘平	6.0
3位	大塚翔生	6.0
4位	CM Tran, Thanh Tu	5.5
5位	東野徹男	5.5

Group A

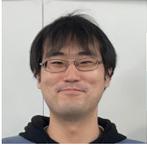
1位	岡部悠真	5.0/7p
2位	石塚美来	4.0
3位	福田豊秋	4.0

(参加54名。敬称略)

(大会規定により、Open入賞者は全日本チェス選手権2023のシード権を得ました。)



石塚美来、岡部悠真



優勝者自戦記
小島 慎也

両岸の攻防

先日参加させていただいたジャパンオープン2022では、5勝2ドローでトップに立つことができ、昨年に続いて連覇を果たすことができました。こちらの記事ではブログ未公開であった5Rの試合をご紹介します。

Nagataki, Kota

Kojima, Shinya

Japan Open 2022(5)

Italian C55

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bc4 Nf6 4.d3 h6!?



直前のラウンドを含め、これまでの長瀧くんの Italian のゲームを見る限り黒のセットアップに関係なく、Bc1-Be3, a2-a3, Nb1-Nc3の組み合わせをしていく可能性が高いと予想していました。通常は4...Bc5と指す私ですが、この試合では黒マスビショップの交換を避けて難解なポジションを目指すことにしました。

5.0-0 d6 6.a3 g6!? 黒マスビショップは、c5,e7に展開するだけでなく、このようにキングサイドフィアンケットを組む可能性もあります。近年は白の手を見ながらg7-g5と伸ばす手も人気がありますが、私はg6で止める形が気に入っています。

7.Be3 Bg7 8.h3 0-0 9.Qd2 Kh7 10.Nc3 Be6 11.Nd5?!



白のピース交換の判断は難しいところですが、白マスビショップはc4の位置のままで待ち、dポーンでc4を取り返した形でd5を抑える作戦は白が問題ないでしょう。11.Bxe6 fxe6と進む局面も考えられますが、黒はNf6-Nh5-Nf4のプランが分かりやすく、個人的には黒が指しやすいと感じます。

11...Bxd5! 12.Bxd5 12.exd5 Ne7と進むと、白はd5を守るできないため、本譜のように2ピース目も交換せざるをえません。するとダブルポーンを作ってセンターの支配を弱めることになるため、11.Nd5の跳びこみがありません。白にとって良い結果ではないことが分かります。

12...Nxd5 13.exd5 Ne7 14.c4 f5!

白の白マスビショップが消え、e4のポーンもd5にずれたことで黒はKing's Indianのように積極的なキングサイドのアクションが起しやすくなりました。次にf5-f4がe3のビショップをトラップする狙いになっていることもシンプルながら強力で、白はこれを受ける手を挟まなければいけないため、黒のキングサイドアタックに対するクイーンサイドでの反撃が少し遅れてしまいます。

15.Qb4 b6 16.a4 a5 17.Qa3 f4!



白にe4ポーンがないことで、黒からはどこかでe5-e4とブレイクをし、黒マスビショップの利きを開くアイデアもあります。しかし、ここではシンプルにキングサイドとクイーンサイドを攻めあうスピード勝負で十分に勝算があると考え、ポーンの形を決めてしまいます。白にe4のポーンがないことで、f5のマスは黒のナイトにとって絶好のマスにもなります。

18.Bd2 Nf5 19.b4 axb4 20.Qxb4 g5! 20...e4?! 21.dxe4 Bxa1 22.Rxa1と進む展開はエクステンジアップになりますが、その代わりに白

のダブルポーンを解消し、攻めの力を落としてしまうことになりま。あくまでキングサイドのポーンを押し、f3のナイトをターゲットにすること、d4のマスを奪うことを目標とします。

**21.a5 bxa5 22.Rxa5 Rxa5
23.Qxa5 h5 24.g4 hxg4 25.hxg4
Nh6 26.Rb1**



黒からのg5-g4を止めるには白からg2-g4とするしかありませんが、このポーンは新たなターゲットになります。26.Nh2 Qc8! 27.f3 Qb7-/+と進んだ場合、黒はa,bファイルの支配にアイデアをシフトして、大きな優位を保つことができます。本譜のように白がクイーンサイドのオープンファイルからc7を攻めるアイデアは、King's Indianでもよく見られるものですが、ここではナイトの退き直しを入れても、白のgポーンを消せた黒のほうが攻めを早く決めることができます。

**26...Nxg4 27.Rb7 Rf7 28.Qa7
Nh6 29.Ba5 g4 30.Bxc7 Qf6
31.Nd2 Nf5?**

c7のポーンを返し、駒数は互角になりましたが、白キングの前に

は黒ポーンが迫っており、上手く指せればあっという間に試合は終わりそうです。ここでは本譜の代わりに、31...Qh4! 32.Bxd6 Rxb7 33.Qxb7 g3 34.Nf3 gxf2+ 35.Kf1 Qh1+ 36.Kxf2 Ng4++で勝ちとなります。試合中は直接的な攻めで勝てるか確信が持てなかったため、d6のポーンを守る安全策を選んだつもりでしたが、結果としては白にディフェンスのチャンスを与えてしまいました。

32.Ne4?



32.Bb6!が受けの好手で、あらかじめf2を守ることによって黒のg4-g3に備えます。d6を取られる攻め合いを一番恐れていましたが、意外と受けに回られたほうが厄介でした。

**32...Qh4 33.Bxd6 Rxb7 34.Qxb7
Nd4!** 次のNd4-Nf3+はクイーンも使った連続チェックでメイトになり、それを受けても次に単純にQh4-Qh3から白キングの退路を断って黒勝ちです。

**35.Qxg7+ Kxg7 36.Bxe5+ Kg6
37.Bxd4 f3 38.Kf1 Qh1# 0-1**



最後は小さなピースを消されて少し驚きましたが、残ったクイーンと進めたポーンで、ぴったりメイトになりました。最近4つ、5つの連勝も大変になってきたので、ここで5連勝を決め、勢いに乗れたのが今大会の優勝に上手く繋がったと思います。

今年は年始にFIDEレーティングを大きく落としてしまいましたが、いくつかの国内大会で優勝でき、プレーの内容もそこまで悪くはなかったと実感しています。そんな今年の集大成として、ジャパンオープンというビッグトーナメントで優勝できたことは、素直に嬉しく思います。最近若くてチェス歴が短くとも、あっという間に強くなるプレーヤーが増えたように感じます。また年が明け、2023年になれば次のオリンピックアードを見据えた大会参加や準備をしてくるプレーヤーも出てくるでしょう。私も現状のレベルで満足せず、様々なチェスを通じて技術の向上を図っていきたく思います。2022年も多くの大会で会場の運営スタッフ、中継や実況の担当者、そして参加者の皆さんにお世話になったこと、あらためてお礼申し上げます。

Tournament Report

大会レポート



東京チェス フェスティバル 2022

秋の気配が色濃い、小雨の降る10月9日に開催された東京チェスフェスティバル。東京都大田区の池上会館視聴覚室は、窓の外に緑が広がる落ち着いた会場です。

総勢47名がAからDまで4つのグループに分かれ、同じレベルの相手と持ち時間30分+30秒/手で3R戦いました。レーティング2000を超える猛者も並ぶAグループから大会初心者対象のDグループまで、それぞれ実力が近い相手と熱い戦いを繰り広げていました。選手からは「3Rだと思って舐めていた」「同レベルの選手の指し方は見ていて勉強になる」という声も。

参加しやすい1日大会を歓迎する選手も多く「このような大会を年に数回開催してほしい」と、嬉しい感想もいただいています。

閉会式ではAグループを制した小林厚彦選手からCM昇格の挨拶もあり、それぞれが力を尽くした大会は笑顔の内に幕を閉じました。



小林厚彦選手優勝スピーチ

「グループ分けのお陰で1日の大会でも充分楽しめました。普段見ない選手も参加されていたようで話しかけてもらったり、フェスティバルの名前に相応しい大会だったと思います。」



チェス・コレ！



小林厚彦さん

言わずと知れたおしゃれ番長、小林厚彦選手。チェスコレ！2回目の登場です。

まるでチェス盤のようなBlack&Whiteのチェックのジャケットはオーダーメイド。そしてボルドーの裏地はなんとチェス駒柄！ワンランク上のおしゃれレーティングで会場を圧倒しておりました。

古瀬瑞季くん

Tシャツの重ね着という上級テクニックを着こなす古瀬くん。袖サイドに入ったブロックチェックは手に持った小物と同じ柄。一見キャップに見える小物は、驚いたことにポーチでした。このところメキメキと実力をつけている彼は、ファッションもトリッキーですね。





サンデーカップ 2022 結果

2023年1月15日に行われるグランドファイナルに向けた予選の結果。各大会上位4名の選手が決勝に進出します。

オープン予選 #2 結果 11月13日

- 1位 FM 馬場 雅裕 4.5 /5P
- 2位 奥野 凜音 4.0
- 3位 ACM Gondhalekar Mayur 3.5
- 4位 山上 紘生 3.0

オープン予選 #3 結果 12月4日

- 1位 篠田 太郎 5.0 /5P
- 2位 塩見 亮 4.0
- 3位 AIM 東芝 輝臣 3.5
- 4位 FM Jones Stephen 3.0

馬車道 秋のチェス体験 2022

5月にも開催され好評だったイベントが、11月3日、神奈川県横浜市にある馬車道の商店街の行事「馬車道まつり」の一角に再び登場。広場に設置されている大きな盤を

使い、大きな駒を運んで戦う迫力のある試合は、どの対戦もとても盛り上がりました。駒の動かし方から始める初心者向けのレクチャーに加え、今回はフォトスポットも用意。チェキを使った撮影タイムには多くの人々が参加してくれました。

ルーキーズチェス 2022秋

初心者に試合の興奮と楽しさを味わってもらうためのイベントを紹介します。

11月20日に東京都 品川区中小企業センターで開催されたルーキーズチェスは、大会に参加したいと思っている方のための体験会。13名の参加者が集まってくれました。1Rの前にテストラウンドを設けたり、対局後はアドバイザーと共に試合を振り返る検討の時間を設けたり。大会とはどのようなものかを知りたい方には特におすすめしたい体験会です。

ステップアップ チェス大会2022秋

同日開催のステップアップは初級者向けの公式戦。初めてエントリーするのにピッタリの大会です。この日は40名の大会初心者が4ラウンドを競いました。表彰式もありますが、チェスの実力を競うというより大会の雰囲気を経験してもらうことが目的です。こちらでも対局後にアドバイザーが検討のお手伝いをしてくれます。

ルーキーズチェス共々2023年の2月にも開催を予定していますが、いずれも人気の会なので早めにお申し込みを！

Asian Juniors Chess Championships 2022

11月17日から26日まで、フィリピンのタガイタイ市で開催されたAsian Juniors Chess Championships 2022。

岡部悠真くんが最終成績4勝2敗(3不戦敗)で、U16の部に3位入賞を果たしました。



訃報

権田源太郎さん

会員の権田源太郎さんが2022年11月10日、72歳でご逝去されました。同20日にお通夜、21日にご葬儀が執り行われ、NCSからも参列、供花を行いました。

権田さんは、経営される権田金属工業の社長を務められる傍ら、長らく日本チェス界のトッププレーヤーとしての活躍を続けて来られました。全日本選手権は1972年の初優勝から2001年にかけて通算12回の最多優勝回数を誇る他、チェスオリンピック代表4回、世界選手権ゾーン代表1回等、輝かしい棋歴をお持ちです。加えて、『挑戦するチェス』（2001年）、『はじめてのチェス』（2002年）の著書も出版されました。

日本チェス界への永年の多大な貢献に改めて感謝の意を表すると共に、心よりご冥福をお祈りいたします。



Interview

インタビュー
後編

坂井あづみさん

こだわりのスタイルを武器に
人との関わりから生まれる楽しさを
強さに変える天性の才能

さかい・あづみ

1991年生まれ。2019年全日本女子チェスチャンピオンに輝き、同年WCMを取得。2022年には全日本選手権女子の部で優勝している。オリンピアードは2014年ノルウェー・トロムソ大会を皮切りに、今回で4回目の出場となる。高い計算力と集中力が特徴の女子最高峰の選手。その一方、期間が長い大会は服装のローテーションに悩む一面も。



オリンピアードでの体験やその魅力をうかがった前編。続く後編はプレースタイルやチェスと関わる日々を浮き彫りにし、強さの秘訣を語っていただいた。彼女が愛されるプレーヤーである理由がそこからも垣間見えてくる。

あづみさんのチャームポイントというフレンチな気がしますが、フレンチを指し始めたきっかけを教えてくださいませんか？

中学の頃に通っていた海外の学校にチェスクラブがあって、そこでチェスを指していた時に周りみんな1.e4-e5を指していたんです。みんな同じような手が多くて、対称形が多かったんですね。黒で対称形になると損した気分になったので「違うやつやりたい」とクラブの先生に相談した時に教えてもらったのがフレンチだ

ったんです。

白番ではもともと1.e4を指して1.d4に切り替えたり、黒番での1.d4対策もダッチを指したりQGAを指したり色々指しているんですけど、1.e4対策はずっとフレンチを指しています。フレンチ以外に挑戦せずにフレンチばかり指しています（笑）。

みんながしているのと違うのを指したかったんですね。

はい、中学生の時にe4-e5が気に入らなかったんですよ。

クラブの他の子たちはそれに反応しましたか？

まあ、そんなに。たぶんびっくりしただけです。

当時はフレンチと言いつつもお互いわかっていないフレンチもどきで。初手がe6ってだけだったん

です。大学でチェスクラブに入ってからオープニングの勉強をするようになって、そこから徐々にフレンチらしい形を指すようになりました。

フレンチの魅力は？

実は、オリンピアードの女子コーチを選ぶときのトライアルレッスンで、複数のコーチからフレンチ辞めたら？と言われました（笑）

え、なぜ？

フレンチは失敗すると狭くなってしまうので、もっと広々アタックできそうなものをやれば？みたいなニュアンスだったんだと思います。

コーチから見たときに、あづみさんにはあっていないということ？

あってないと思われたみたいですね。ただ、他のオープニングを挑戦したことがないので、他のものも試したいっていうのはずっと思っています。

それだけ長く指していたら愛着があるのでは？

カジュアルな時には、たまに違うオープニングも指しています。

でも、フレンチは複数のバリエーションを勉強していて、長く愛用しているので変えづらいですね。大会ではちょっと怖くてフレンチ以外まだ指せません。

あづみさんに特化したフレンチ対策をされていても怖くない？

女子選手権ではフレンチで戦えていますし、今のところオープニングの準備で負けていると思うことはないですね。

かっこいい…！

今後、もっと調べている人と当たる可能性もありますが、私も10年フレンチを指しているので、数年勉強したくらいの相手にはまだいけるんじゃないかという期待と、きっかけがあればフレンチ以外も指したいなという気持ちもあります。オープニングは徐々に増やしていきたいです。

チェスで強化したいと思っているところ、大事にしてきたことなどあれば。

たまに「どうやって勉強したらいいか」と質問されるんですけど、これをしたから強くなったと

いうよりは色々なことを勉強していくのが大事かなと思ってます。私が今強化すべきが何か分かりませんが、私はそのとき一番楽しいと思っていることをやっています。

タクティクスをめちゃくちゃやっていたときがあったとか。

(笑)タクティクスを強化したくて、やりやすかったのがチェスコムでした。もっと別の手段もあるかもしれませんが、「タクティクスの勉強をして強化しなきゃ！」とレベルに合わない本を並べて辛くて進まなくなるよりは、一番楽しいと思えるものから取り組んで。そうやって続けることがいいんじゃないかなと思っています。楽しくなければ続かないので。

アーガードの本は楽しかったですか？

そうですね。アタッキングマニュアルとか難しい本を一人でやると大変なのですが、チェスクラブでみんなとわいわい意見を出しながらやると楽しいです。楽しいと思える方法が一番続けられます。

レベルだけではなく、どうやるのか、誰とやるのか、ということですね。

一人でやる本はレベルを変えて自分が楽しいと思えるものにしていきます。

辛くて辛くてっていうやり方は私はしていなくて、オープニングの勉強だったらオリンピックアードのコーチと一緒にすると楽しいと

か、苦手なタクティクスはみんなとやると楽しいとか。辛かったらアプローチを変えてみる。楽しくないことは続けられないです。

話は変わりますが、世界を見てきたあづみさんだからこそ、日本のチェス界が今後このようになっていけばいいと思うことはありませんか？

日本では、ジュニア選手が大勢出てくる大会ってそんなにないですね。今のチェス界の規模だからこそそのアットホームさも魅力ですけど、もっと人が増えて欲しいですね。

また大会に出るガチ勢だけでなく、子どもの時にちょっと指したことがある、という人が増えて裾野が広がるといいですね。大会や競技だけでなく、もっとカジュアルに指せる場所が増やせれば。みんなでチェス界を盛り上げていけるといいなと思っています！

Interview Next Generation

ユースプレイヤー
インタビュー

このコーナーでは、これからの日本チェス会を盛り上げる若手プレイヤーをご紹介します。今回登場してくれたのは台湾在住の小学生、遠藤秀馬さんです。11月に開催されたジャパンオープンが日本での初めてのFIDE公式戦。強敵にも臆することなく戦う姿が注目を集めていました。将来は日本代表としてオリンピックに出場したいという夢を持つ秀馬さんに、印象に残る大会やゲームについて聞いてみました。

Interviewer



Kanako
Kinoshita

遠藤秀馬さん(11) *Shuma Endo*



2020年8月に初めてFIDE公式戦に出場した際の秀馬さん

Data

遠藤秀馬(えんどう・しゅうま)
生年月日: 2011年10月14日
出身地: 生後半年から現在まで台湾新竹市に住む
チェスを教わった人: 新竹皇家西洋棋學院のRey先生
趣味: チェス、読書、音楽
学校の好きな教科: どの教科も好き
将来の夢: オリンピアードに出場する、プログラマーか国連で働く
好きな食べ物: ラーメン

チェスとの出会いと、続けている理由を教えてください

6歳の時にマレーシア人の同級生にチェスを教えてもらい興味を持ちました。その後、近所に教室があったので、毎週そこに通って勉強をしました。

チェス教室で友達がたくさん出来たことと、チェスを習って1年後ぐらいから始まったトーナメントで何度もトロフィーがもらえたことがうれしくて、チェスを続けることができました。

普段どこでチェスを指し、どんな風に勉強やトレーニングをしていますか？

普段は勉強の後に、オンラインでチェスをしています。台湾ではFIDE公式戦は年に1度ですが、それ以外にほぼ毎月トーナメントがあるのでそれに出場しています。

チェスの勉強はIM小島慎也先生や台湾

に住むアメリカ人の先生から個人レッスンを受けています。後はProChessTrainingのレッスン動画を見たり、Chessableをしています。

チェスに関して印象に残る出来事があれば教えてください

印象に残った大会は、初めて参加をしたジャパンオープン2022です。強い相手ばかりで、全ての経験が勉強になりました。

ゲームについてですが、僕は以前GingerGM (GM Simon Williams) のYouTube動画を見るのが好きでした。その中に "The Golden Coin Game" という題名のLevitsky vs Marshallを解説するゲームがありました。これを見る前は、チェスの中にこんな美しさがあるなんて知りませんでした。このことがきっかけでチェスをもっとプレーしたい、もっと勉強



ベストゲーム（記事中）の行われた
「111年新北市城市盃全國西洋棋團體錦標賽」にて

18. Nxc5 hxc5 19. Rc1 Ne7
20. Nxe7+ Qxe7 21. Qd2 f5 22. f3
a5 23. a4

ここで、僕は相手が自分のポジションをロックすることを心配しました。

23... bxa3 24. Ra1 Rfb8 25. Rxa3
Rb4 26. Qa2 Qa7 27. Ra4 f4 28.
Ra1 Qb6 29. Rb1

おたがいのピースのテンションはここがマックスでした。

29... Rb8 30. Rxa5 Rxb3 31.
Rxb3 Qxb3 32. Qxb3 Rxb3

僕にアドバンテージがあるルークのエンドゲームです！

33. Ra6 Rxd3 34. Kh2 Rd1 35.
Ra4 Kf7 36. Ra6 g6 37. Ra7+ Ke6
38. Ra4 Rc1 39. Ra8 Rxc4 40.
Re8+ Kf7 41. Rd8 Rd4 42. Rc8 c4
43. Rc6 Ke6 44. Rc8 Kd7 45. Ra8
c3 46. Ra3 Rc4 47. Ra1 c2 48.
Rc1 Kc6 49. Kg1 Kc5 50. Kf2
Kd4 51. Ke2 Kc3 52. Ke1 Kb2 53.
Kd2 Rd4+ 54. Ke2 Kxc1 55. Ke1
Kb2 56. Ke2 c1=Q 57. g4 Rd2#
0-1

僕は7ラウンド全勝し、チームも優勝して嬉しかったです。

したいと思うようになりました。

チェス以外で好きなことはありますか？

読書が好きです。特にギリシャ神話が好きで、今年の夏休みは2ヶ月間オンラインでギリシャ神話をもとにした本の勉強をし、最後は自分でもギリシャ神話を書きました。

ベストゲームを教えてください

このラウンドは、いつもドローのプレパレーションをしてくる選手との対戦になりました。僕は必ず勝たなければいけません。

1. e4 e5 2. Nf3 Nc6 3. Bb5 a6
4. Ba4 Nf6 5. d3 b5 6. Bb3 Be7
7. O-O O-O 8. Nc3 d6

相手は僕に絶対マーシャルアタックをさせません…。

9. h3 Bb7 10. Bg5 h6 11. Bh4
Na5 12. Re1 c5 13. Bxf6 Bxf6
14. Bd5 Bxd5 15. Nxd5 Nc6
16. b3 b4 17. c4 Bg5

自分でもおかしな手だとは思いますが、僕は相手のd5ナイトがパワフルになるポジションを阻止したかったのです。

タクティクス・ジム

05 ディスカバードアタック Discovered Attack

例題 △白番



b3ビショップの黒のキングへのアタックをf7ルークで止めています。なので、止めているルークがどこかに動くだけでアタックになります。では、ルークはどこに動くのが一番いいでしょう？

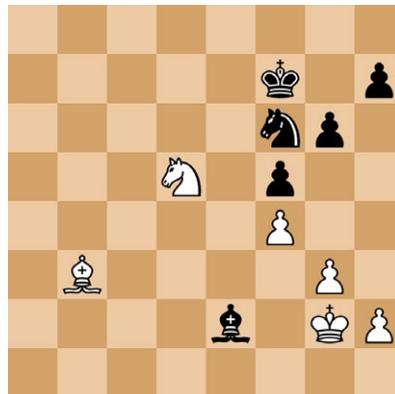
そう考えると **1.Rd7+**が正解だと分かります。次に Rxd8と必ずルークを取れるからです。まるでルークが2手連続で動いたかのようなテクニックです。

これを**ディスカバードアタック**(この場合は**ディスカバードチェック**)といいます。

Level 1

さあ、次の10問で
練習しましょう！ 

01 △白番



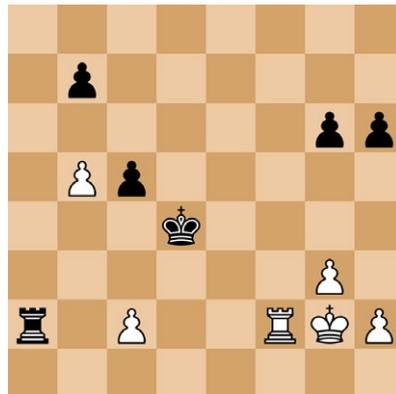
02 △白番



03 △白番



04 △白番



05 △白番



06 △白番



07 △白番



Level 1

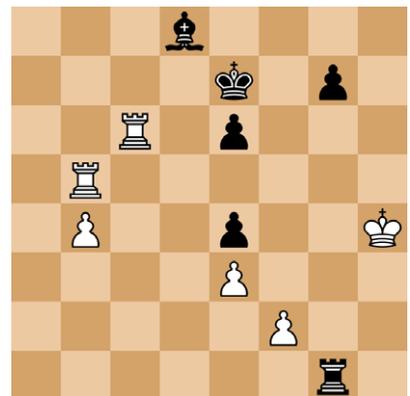
ここから黒番です



08 ▼黒番



09 ▼黒番



10 ▼黒番



Level 2

発展問題 △白番



グランドマスターどうし
の実戦。白が駒を得する決
め手を見つけてください。
高次元のディスカバード・
アタック！

☞ 正解は 34 ページ

名プレイヤーから学ぼう

Learn From Legends

vol.4 José Raúl Capablanca

José Raúl Capablanca (ホセ・ラウル・カパブランカ、 1888-1942)

史上最高の天才の一人と目されるキューバ出身の世界チャンピオン。シンプルかつ正確なプレーを武器にして、1921年に絶対王者Laskerと世界選手権を戦い第3代世界チャンピオンの座に就いた。

歴代世界チャンピオンの中で最も敗北した数が少ないプレイヤーでもあり、Laskerとのマッチを含む1916年から1924年の間は1度も負けなかった。また、Capablancaの解説は複雑な分岐が少なく単純明快であることで知られており、彼のゲームや解説は後世の多くのプレイヤーに影響を与えている。



José Raúl Capablanca (Wikipediaより)

みなさん、こんにちは。今回は第3代世界チャンピオン、Capablancaを紹介したいと思います。チェスの美しさはもちろん、その天才性から創作物にもよく名前が登場する人気のチャンピオンです。

まずは、前回までに紹介した歴史を軽くおさらいしておきましょう。AnderssenやMorphyが活躍した時代はチェスのロマン時代、派手なサクリフェイスや無謀な攻撃が飛び交う時代で、Morphyは他のプレイヤーに先駆けてチェスの攻撃の本質を見抜き頂点に立ちました。

次に現れたSteinitzは、Morphyらのプレーを徹底的に研究し、ポジショナルプレーの基礎を確立します。Steinitzの理論は現代のチェスプレイヤーが誰でも勉強する基礎理論であり、Tarrasch、Lasker、Rubinsteinといった後続のプレイヤーによってより洗練された形に整備されていきました。トッププレイヤーたちの防御能力は向上し、チェスで勝つためにはより繊細なテクニックが要求されるようになります。

そんな中、チェスシーンにまた一人、José Raúl Capablancaという天才プレイヤーが現れます。キューバで生まれたCapablancaは、幼い頃にチェスを指す父親の隣でルールを覚え、13歳のときには国内チャンピオンを負かすようになります。

【文】山田 弘平 (やまだ こうへい)

1988年北海道生まれ。FIDEマスター/FIDEインストラクター。国内大会の優勝、日本代表経験あり。日本初のスポンサープレイヤーとして活動する一方、オンライン講座で普及活動も行っている。



Capablancaのプレーの特徴はそのシンプルさです。自ら「オープニングの本は開いたこともない」と公言していた通り、彼は他のトッププレイヤーに比べ勤勉なタイプではありませんでした。しかし一方で、ポジショナルプレーに対する理解は深く、他のプレイヤーが気づく前にリードを大きく広げてしまうことを得意としていました。Capablancaのスタイルについては、Fischerの言葉を引用するのがわかりやすいでしょう。

「Capablancaは偉大なチェスプレイヤーの一人だが、それは彼のエンドゲームによるものではない。彼の戦術はオープニングをシンプルに保ち、エンドゲームを迎える前にミドルゲームで勝負を決定づけてしまう（そしてたいい相手はそれに気づかない）ところにある。」

そのシンプルさゆえに、Capablancaのゲームは今でも様々な場面で教材として使われます。今回はCapablancaのプレーを通じて、ポジショナルプレーの理解を深めていくことにしましょう。

まずご紹介するのは1906年、Capablancaが20歳のときに指したゲームです。この時期Capablancaはアメリカに遠征しており、数多くのゲームをこなしていました。同時対局を含め600以上のゲームを指したそうですが、負けたゲーム

はわずか13試合だったそうです。

このアメリカ遠征の最中、Capablancaは当時31歳だったFrank Marshallとマッチを行います。MarshallはLaskerとのマッチに敗れていたものの、それでも世界トップクラスの実力者とみなされていました。

しかし、若き天才Capablancaはその実力を存分に発揮し、Marshallを追い込みます。8勝先取のルールで先に7勝を挙げ（その間に喫したのはわずかに1敗でした）、第23ゲームを迎えます。

Marshall, F Capablanca, J

Match 1909 NewYork (23)

1.d4 d5 2.c4 e6 3.Nc3 c5 4.cxd5
exd5 5.Nf3 Nc6 6.g3 Be6?!
7.Bg2 Be7 8.O-O
Nf6 9.Bg5?



Marshall - Capablanca 9.Bg5まで

ゲームはQGDのTarrasch Defenceと呼ばれる形から始まりました。まだこの時代は序盤が進化途上だったこともあり、お互いにやや不正確な指し手が目立ちます。6...Be6は後々Ng5やNd4から標的に

されるため、6...Nf6 7.Bg2 Be7のような進行が無難です。

一方、白の9.Bg5も良い手ではありません（しかし当時はよく指されていたようです）。一度9.dxc5!を挟んでおいて、9...Bxc5に10.Qb3や10.Bg5、10.a3のような手であれば白が優勢でした。

9...Ne4! 黒はピースの交換を迫り局面を単純化します。Capablancaはこのアイデアを強豪の一人であったMiesesのゲームから学んでいたようです。

お互いのポーンの形に着目してみましょう。黒はクイーンサイドでポーンを多く持っていることがわかります。このように、盤の片側でポーンの数が多いことをマジョリティと呼びます。

つまりエンドゲームに入った場合、クイーンサイドでパスポーンを作る可能性が高いのはマジョリティを持つ黒の方、ということになります。Capablancaがこのマジョリティをどのように活かすのか、それを頭にいれて本譜の進行を見ていきましょう。

10.Bxe7 Qxe7 11.Ne5?

鋭いアタッカーとして知られるMarshallは積極的に駒を前に進めますが、次第にCapablancaの術中にはまっています。

11.dxc5 Nxc3ならばc3に弱点を抱える白が面白くない、というのがCapablancaの主張ですが、実際には12.bxc3 Qxc5 13.Ng5!のように

e6のビショップを標的にすればやや白に分がある中盤戦です。

ポーンの形が乱れることを嫌うのであれば、11.Rc1! Nxc3 12.Rxc3という指し方もあります。これは12...c4!とクイーンサイドのポーンの多さを活かされてしまうデメリットがあり、黒も互角に戦える局面でしょう。

11...Nxd4! 12.Nxe4 dxe4 13.e3



Marshall - Capablanca 13.e3まで

白はd4のポーンを取られてしまったので、ナイトを交換してから13.e3と突き、ポーンを取り返しにきました。13...Nc6のような手では14.Nxc6 bxc6 15.Bxe4と進めて、弱点の多い黒が不利になります。

一見黒が困ってしまったように見えますが、Capablancaは返し技を用意していました。

13...Nf3+! 14.Nxf3 exf3 15.Qxf3 O-O!

13...Nf3とポーンを返しながら駒交換を挑みます。オープニングを終えた段階で、Marshallの得意な複雑な局面を避けながらシンプルな局面を作り出すことに成功しました。

15...O-Oも地味な好手。b7のポーンが当たっていますが、16.Qxb7? は16...Qxb7 17.Bxb7 Rab8 18.Bf3 Rxb2と進み、黒が優勢です。cポーンがパスポーンになりa2ポーンが弱点となつては白が支えきれません。



Marshall - Capablanca 15.O-Oまで

さて、改めて局面を見てみると駒の損得はありませんが、黒はクイーンサイドでポーンマジョリティを得ています。これがこのゲームのカギになります！ 黒の作戦はクイーンサイドのポーンを進めることです。わかりやすいですね。

一方、白はどうでしょう？ 白はキングサイドのポーンが多いですが、なかなかキングサイドでは戦いを起こすことができません。現代のチェスエンジンはこの局面をほぼ互角と評価しますが、実戦的にはこのあとの作戦が立てやすい黒が大成功の局面です。

16.Rfc1 Rab8 17.Qe4 Qc7!

18.Bh3の交換を防ぎます。局面をシンプルにするとは、常に駒を交換するというではありません。e6のビショップはパスポーンの進軍を支える重要なピースです。

18.Rc3 すでに白が難しい局面です。Laskerであれば局面を複雑にするべく18.f4!?などと動いたかもしれせん。

18...b5 19.a3 c4!

ここにも黒のちょっとした上手さが窺えます。c3ルークの動きを制限しながら、a5-b4を狙います。18.Rc3としたことで、黒のポーンがよりスピードアップしたことに注目してください。

20.Bf3? 20.Rd1 Rfd8 21.Rcc1と耐える手が必要でした。おそらくMarshallのアイデアは黒のポーンが白マス (=自分のビショップと同じ色) にあることに注目して、ビショップエンディングに持ち込むことだったはずですが、これらのポーンはすぐに進んできます。

20...Rfd8 21.Rd1 Rxd1+ 22.Bxd1 Rd8 23.Bf3 g6



Marshall - Capablanca 23...g6まで

戦いらしい戦いをしていないにもかかわらず、局面はすでに大差です。次に24...Bd5 25.Qg4 h5!があるので白はクイーン交換を挑みますが、逆にルークの侵入を許して

しまいます。

24.Qc6 Qe5! 25.Qe4 Qxe4 26.Bxe4 Rd1+!

Kf1と近づいてくることを許さない重要なチェックです。

27.Kg2 a5 28.Rc2 b4 29.axb4 axb4 30.Bf3 Rb1

黒はルークを侵入しポーンを突き、やりたい作戦をスムーズに行っています。こういった展開になると正確にディフェンスするのは難しいものです。

31.Be2? 31.Rd2!であれば苦しいながらも、黒に問題を突きつけることができたでしょう。エンジンで調べれば31...Ra1! 32.Be2 Ra2や31...b3 32.h4 Rxb2!! 33.Rxb2 c3!というような変化で黒勝ちということがわかりますが、実戦で読み切るのは容易ではありません。

31...b3! 32.Rd2 Rc1!

次のRc2を受けるためにはビショップを捨てなければならず勝負ありです。

33.Bd1 c3 34.bxc3 b2 35.Rxb2 Rxd1 36.Rc2 Bf5 37.Rb2 Rc1 38.Rb3 Be4+ 39.Kh3 Rc2 40.f4 h5 41.g4 hxg4+ 42.Kxg4 Rxh2 43.Rb4 f5+ 44.Kg3 Re2 45.Rc4 Rxe3+ 46.Kh4 Kg7 47.Rc7+ Kf6 48.Rd7 Bg2 49.Rd6+ Kg7 0-1

Capablancaの傑出度がよく分かるゲームでした。Capablancaがあ

まりにも簡単に勝ったように見えたことで、当時の人々は相手のクイーンサイドにポーンがあるだけで自動的に不利になるのではないかと恐れたと言います。

一方、1勝8敗という大差で敗れたMarshallは、Capablancaが今までのプレイヤーとは全く別次元でチェスを理解していることに気づき、彼がトップレベルのトーナメントで指せるように多大な尽力をしたと言われていました。その甲斐あってか、Capablancaは1911年にサンセバスチャンのトーナメントに参加し、Rubinsteinらを上回り優勝しました。

MarshallとCapablancaの間にはもう一つ面白い話があります。Marshallはマッチに破れた後、密かにCapablancaを倒すための作戦を準備していました。その作戦が実際盤上に現れたのは9年後のことです。

Capablanca, J Marshall, F

New York 1918

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bb5 a6
4.Ba4 Nf6 5.O-O Be7 6.Re1 b5
7.Bb3 O-O 8.c3

よく知られたRuy Lopezの基本形ですが…。

8...d5! 9.exd5 Nxd5



Capablanca - Marshall 9...Nxd5まで

8...d5とセンターから反撃して、e5のポーンを捨てます。これが後にMarshall Gambitと呼ばれるようになった強力なオープニングで、現代でもAronianを始めとしたトップGMたちが得意としています。黒番の定跡としては非常に高い勝率を誇っていたことから、現代ではこのギャンビットを避ける変化もたくさん開発されました。

しかし残念ながらこのゲームは、激闘の末Capablancaの勝利に終わりました。Marshallの鋭い攻めをぎりぎり受けきったことで、Capablancaは実は複雑な局面にも強い、ということを周囲は再認識したことでしょう。

もう一つ、Capablancaの特徴がよく出たゲームをご紹介します。

以前、NCSのYouTubeチャンネルでAtkins - Capablanca 1922というゲームを紹介しましたが、Capablancaはポーンが置かれているマスの色に敏感なプレイヤーでした。

例えば動きやすいビショップをグッドビショップ、自分のポーン

に囲まれて動きづらいビショップをバッドビショップと呼びます。よって、ビショップを1つ交換した後は「自分のビショップと逆色にポーンを置く」手が良い手になりやすい、ということになります。この考え方はカパブランカルールと呼ばれます。

実際にCapablancaがどのようにマスの色を利用していかか、次のゲームで学んでみましょう。

Nimzowitsch, A

Capablanca, J

New York International 1927 (15)

1.e4 c6 2.d4 d5 3.e5 Bf5 4.Bd3?
Bxd3 5.Qxd3 e6



Nimzowitsch - Capablanca 5...e6まで

対戦相手のNimzowitschは名著『My System』を執筆した理論家です。しかしこの時代には、4.Bd3がポジショナルな観点から悪手であるということはまだ知られていなかったようです。

ビショップを交換した局面を考えてみると、黒のビショップは自分のポーンと違う色に、白のビショップは自分のポーンと同じ色に置かれていることがわかります。

つまり4.Bd3はカパブランカ・ルールに違反した手、ということになります。

理論的な補足をしておくと、4.h4!? h5 5.Bd3 (Talバリエーションと呼ばれます)であれば白も戦えます。カパブランカルールには違反していますが、代わりにg5のマスが弱くなっているため白はg5を利用して攻めを作ることができます。

6.Nc3 Qb6 7.Nge2 c5 8.dxc5 Bxc5 9.O-O Ne7

黒は手薄になった白マス、この場合はf5にナイトを配置しにいきます。

10.Na4 Qc6 11.Nxc5 Qxc5 12.Be3 Qc7 13.f4 Nf5

局面の特性がはっきりしてきました。白はセンターからキングサイドでスペースを取りましたが、黒は弱くなった白マスにナイトを配置します。



Nimzowitsch - Capablanca
13...Nf5まで

14.c3?!

ここから白は誤った道に進み始めます。

正しい方針は積極的に戦いを起こすことで、14.Rac1! Nc6 15.Bf2 h5 (16.g4を防いでいます) 16.c4 dxc4 17.Qxc4 O-O 18.Rfd1として次にNc3-Ne4を狙う変化が、後にAlekhineによって示されています。

ポジショナルプレーを得意とするNimzowitschはスローペースで指すことにしたようですが、白からはっきりとしたプランがなく、黒に長期戦に持ち込まれて困ることになります。

14...Nc6 15.Rad1 g6

「こういった局面では、できるだけキャスリングを遅らせるのが良い。(キャスリングするかしないか)相手に両方の可能性と戦うことを強いることができる」とCapablanca自身は解説しています。さらに15...g6は次の16...g4を誘う手でもあります。

16.g4? ポジショナルプレーで名を馳せたNimzowitschには珍しいポジショナルブランダーです。Capablancaはこのあとうまい手順で、白の反撃筋を封じてしまいます。

16...Nxe3 17.Qxe3 h5!



Nimzowitsch - Capablanca

17...h5まで

17...h5で白に18.g5を強制させるのが好手。f5のマスがアウトポストになります。

しかし18.h3?のような手では、18...hxg4 19.hxg4 O-O-O!とされてhファイルから攻め込まれてしまいます。18.gxh5?! Rxh5 19.Qc5と...Ne7を防ぐ手には19...Qe7!としてこれも黒が指しやすい形勢です。

18.g5 O-O 19.Nd4 Qb6 20.Rf2 Rfc8

白はやむなく18.g5としましたが、黒はゆうゆうとキャスリングしてクイーンサイドで戦う準備を始めます。

21.a3 Rc7 22.Rd3 Na5?

戦略上は黒が成功していますが、局面を楽観していたのか、不正確な手ができます。22...Ne7!とこちらに引くのが正しい手です。

23.Re2! ナイトが脇に逸れたことで、次にf5とポーンを捨てて攻撃する手が発生しました。長期的なアドバンテージを持つ側は、なるべく相手のカウンターを許さないことが重要です。

23...Re8 24.Kg2 Nc6!

間違いを認めて軌道修正します。

25.Red2 Rec8 26.Re2 Ne7! 27.Red2



Nimzowitsch - Capablanca
27.Red2まで

寄り道をしたものの黒は正しい方向に進みはじめます。しかし白の陣形も簡単には崩れそうにありません。このあとCapablancaがどうやって相手を崩すのか、注目してみましょう。カギになるのはやはり白マスです。

27...Rc4! 28.Qh3 Kg7!

まずは...Nf5の準備です。

29.Rf2 a5 30.Re2 Nf5!

f5のマスを利用してd4のナイトを消しにかかります。31.Red2 Nxd4 32.Rxd4 Rxd4 33.cxd4 Qb5! 34.Qf3 Rc1!!は白負けなので、白はf5でナイトを交換するよりありません。

31.Nxf5+ gxf5 32.Qf3

32.Qxh5? Rh8 33.Qf3 Rh4!!は黒勝勢。28...Kg7はルークをhファイルに回すための手でした。また、少し前に白マスに配置されたc4のルークもよく働いています。

32...Kg6 33.Red2 Re4!

強力な駒をセンターに持っていきます。e4も白マスです！

34.Rd4 Rc4 35.Qf2 Qb5! 36.Kg3

白はまともに動く手がありません。36.Rxc4 Qxc4 37.Rd4には37...Qb3からb7-b5-b4と伸ばすプランがあります。

36...Rcx4 37.cxd4 Qc4

白のポーンはすべて黒マスに固定されていますが、黒の駒はその裏の白マスを制圧してしまいました。黒にはbポーンを伸ばす手や...Qc1と侵入する手がありますが、白にはそれを止める手段がありません。

白は戦いの場を得ることなく、リザインに追い込まれてしまいました。

38.Kg2 b5 39.Kg1 b4 40.axb4 axb4 41.Kg2 Qc1 42.Kg3 Qh1 43.Rd3 Re1 44.Rf3 Rd1 45.b3 Rc1 46.Re3 Rf1 0-1

今回ご紹介した2つのゲームからわかる通り、Capablancaのゲームでは相手にチャンスらしいチャンスが来ないまま終局することがよくあります。Capablancaはポジションの特性を深く理解し、その特性に応じたプランを実行すれば、複雑な計算を必要とせずに相手を押しつぶすことができる、ということを示したプレイヤーでした。

Capablancaは、Steinitzのようにチェスの理論に大きく貢献したわけではありませんが、Petrosian、Fischer、Karpovといった後の世界チャンピオンに大きな影響を与えています。Capablancaの勝ち方を理解することで、チェスにおける

良い形や悪い形を理解できるという意味でも、初中級者の方にはCapablancaの棋譜をたくさん並べてほしいと思います。

さて、Steinitzから始まったポジショナルチェスは、天才Capablancaによって新たな形に進化しました。深く読むことなく、わずかな優位を拡大して勝つ究極のポジショナルチェスに対して、同じ時代のプレイヤーはどのように立ち向かって行くのでしょうか？

今回はCapablancaを打ち破ったプレイヤーの話をしたと思います。お楽しみに！

チェス大会 【文】上杉賀子

in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子(上杉 晋作・2007年高校1年生で全日本史上最年少チャンピオン)が2009年チェス国籍日本の最年少FIDEマスターとなり2010年全米高校選手権で優勝するまで(さらにアメリカのSenior Masterの資格となるUSCFレート2400の壁を超えるまで)参戦した、アメリカの全ての公式戦、約180大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から1年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

NO.63 フォックスウッド・オープン大会

2006年4月12日～16日

晋作(14歳)の結果：5.0P/9Game

レーティング 2102→2145

大会詳細：[USCFサイトより](#)

4/12から4/16までイースター休暇を使って、コネチカット州で行われたFOXWOODS OPENに参戦してきました。5日間9試合、持ち時間は40手2時間、サドンデス1時間なので一戦は最長6時間になります。一番上のオープンセクションに挑戦し、3勝2敗4引分け、117名中、26位タイの40位でした。全米の中でもWorld Openに次ぐくらいのビッグトーナメントで、この成績がとれるとは思ってもみませんでした。アメリカのマスター達だけでなくヨーロッパ、南米のマスターも参加し国際色豊かなハイレベルの大会でした。レートはいっきに2145まであがりました。

1. インターナショナルマスター Justin Sarkar (2355) 白で負け
2. 全米学年別 11 年生チャンプ Christopher Williams (2126) 黒で負け
3. 先の US Women Championships で大活躍した
モンゴルの女性 FIDE マスター Batchimeng Tuvshintugs (2206) 白で勝ち
4. エクアドルの女性インターナショナルマスター Evely Moncayo(2261) 黒でドロー
5. 昨年のワールドオープンの U2200 のチャンプ Lawyer Times (None) 白で勝ち
6. ロシア人のベテラン Avraan Pismenny (2306) 黒で勝ち
7. 4月現在 15 歳の全米 NO.1 ランキング、全米学年別 10 年生のチャンプ、
2006 年 US マスターズの Co チャンプの Danniell Ludwig (2361) 白でドロー
8. 75 歳現役往年のグランドマスター、Anatoly Lein (2325) 黒でドロー
9. マスター Dmitri Shevelev (2349) 白でドロー

一日目

主人の運転で今朝5時半に出発、すこし混んだところもありましたが2回のトイレ休憩と一回のマックでの食事を入れて7時間、12時半に着きました。バハマのアトランティスのようなホテルです。14時半に部屋に入れるまでホテル内を探索しました。チェス会場までは中でつながっています。試合開始まですこし

ゆっくり出来る時間があってよかったです。

ホテル併設のカジノでは特に老年寄りのグループが大勢いてBINGOのところはそういう方ばかりであふれかえっておりました。

スロットマシーントーナメントというのがあってひたすら15分間キーをたたいて1位は150ドル、エントリー fee は無料のような催しがあり一度挑戦しようと思いましたが、おばあさん達のすばやい手の動きを見て驚き、あきらめました。

レストランは沢山あってフードコートもあります。でも初日は旅の疲れもあるので、部屋でもってきたおにぎりとかップめんでの夕食にしようと思います。

初戦は25歳の実力どおりのレートの人で全米選手権のqualifierな



晋作の初戦

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

のでまだまだ歯が立たず完敗でした。でも親のほうの気持ちが「何で負けるの?」という風になってきているので困っています。親の気持ちをぐっとこらえないと、ここから伸ばすことはできないので、一流選手は親が一流なんだと痛感しています。昨年優勝、今年も優勝候補筆頭のGMヒカル・ナカムラが、ジンバブエから来たFMに負けるという波乱がありました。そのFMは一昨年の世界ジュニアに出ていて今21歳です。

そのヒカルさんのお母さん(アメリカ人のバイオリニスト)に「日本からきた方ですか?」と日本語で話しかけられ、大学の話などもしてすっかりお友達になり、メルアド交換しました。日本のチェス界、将棋界など共通の知人の話で「日本語で」盛り上がりました。ちなみにヒカルさんの(カッコいい!!)お兄さんのアスカさんはペンシルバニア大学のウォートンスクールです。ヒカルさん(長男と同じ学年)もチェスと大学でいろいろ悩んでおられるようです。ヒカルさんの養父FMのSunil氏は後ほど合流します。

他にも将棋アマ4段のチェスのFMからも声をかけられ、彼は日本に6年いたそうで晋作が昨年全日本で対戦した人たちと知り合いだそうです。晋作は負けましたが初戦からこれだけ私の収穫(?)はありました。この界限ではあまり見かけないGM、IM、FMが沢山います。晋作のOpenセクションは場違いです。自然とこの界限で対戦している知り合いとは「仲間」のような気になって会うとGood Luckと言ひ合います。

二日目

主人はこのところの激務で(予想通り)朝から倒れておりました。試合は12時からなので、それまで晋作はもってきた漫画を読んでいました。さっきまでは将棋をしていました。先日プロの方に平手で指してもらって以来、将棋のほうに興味が出てきたようです。

2戦目はとてもいい試合で、晋作にもチャンスがあるなか最終的に勝った相手のほうは大喜びしたというほど「タフゲーム」で、試合後知り合いになり結果等を聞いてくれるようになりました。3戦目はモンゴルの20歳のWFMでした。残り3秒でなんとか指してやっとサドンデスに突入、横で見ている私はいつもながら胃が痛くなりました。でも凄と思ったのはその残り3秒からの10手ほどをしっかりと棋譜をとっていたことで、サドンデスに突入してしばらく頑張るつもりだったようです。一方相手は、勿論残り時間が少なくなってからの10手ほどはとっていませんでした。相手が棋譜をとっている場合、普通はその内容を聞くのですが、息子なんかには聞けないというプライドのためか、一生懸命思い出しながら棋譜をうめていました。1、2、3戦目の対戦相手は今ではとても親しい友人たちです。

さて私(と主人)の成果ですが、ま



3戦目モンゴルのWFMとの対局

ずはGMヒカルさんの漢字入りサインをもらいました。彼は棋譜の自分の名前欄に漢字で書いているようです。お母さんによると最近とくに日本語に興味をもってきたとのこと。夜、ヒカルさんのお父さん(スリランカ人の養父でFM)が話しかけてきてくれました。前日、奥様から聞いていたようです。晋作が勝ったあと、たまたまヒカル親子をみつかったので記念写真を撮らせてもらいました。一枚は私もはいました。なかなかこれはプレミアものだと思います。



GMナカムラ・ヒカル君と養父Sunilさんと

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

三日目

ヒカルさんや対戦したことのあるGMなどが晋作の試合を見に来てくれたりします。(恥ずかしい)あと、日本人でNYで頑張っている6年生のS君父子と知り合いになりました。彼は去年の夏休み、全日本小学生選手権にでていたのでチェス通信で名前を知っていました。1400台です。コーチもつけてがんばっています。U1600にでています。もうひとりNYの日本人も今日から来ます。彼は今はチェスから離れていますが、アメリカのジュニアスノーボード界で超有名な人です。

晋作の全米学生大会の友人達はU2200にいます。

メリーランドの今年のハイスクールチャンプで、8月の全米高校生代表大会に行く友人も今日からで、昨日の夜に現地入りして話しました。もうひとりメリーランドからの6年生は日本旅行から帰ってきたばかりとか...、昨日夜から参戦です。お母さんが言語学者でカーネギーで研究されていたそうで、日本にも行ったことがあり、川端康成の小説を読む人です。ときどきメールのやり取りをしている仲良しです。地元あの年代の子達には晋作もちょっと有名なようで、晋作が彼の試合を見にいくと「見に来てくれた」と喜んでいようです。晋作と同じで、野球やバスケットなどスポーツが好きの子です。晋作も試合の合間に見に行く場所が増えて自分の試合どころではないかもしれません。

私はホテルのあちこちでモデル

になって主人に写真を撮ってもらう予定(?)です。家にいるとパソコンばかりで食事もろくにとらないのが、ここにくると、ホテル内、会場内、とにかく歩きまわるので食欲旺盛です。昔はスポーツ大好き少女(??)だったのが、ずっと運動不足になっていました。長男の陸上大会の応援に行くと、過ぎしよき日を思い出して思い切り走りたくなるのですが、すっかり弱ってしまった足腰が情けないです。でもここではしっかり歩いていい運動になっています。

四日目

FIDE2306のロシア人にエンディングを制して勝ち、ボードも23番まであがってきて、FIDE2361の4月度全米15歳(もうすぐ16歳だと思いますが)NO.1と引き分けました。晋作のほうが有利でしたが、タイムプレッシャーもありドローにしました。彼は今回2590の人を倒しています。彼とは試合後、しばらく検討し、すっかり知り合いになりました。そこにバージニア出身の有名大学生(2250くらいでUpennのウォートンビジネススクール、トーマスジェファーソン高校出身)も加わり、主人も思わず写真を撮りました。ちなみにその大学生は1.5ポイントしかとれず途中でやめています。友人で以前のK-6の全米Co-Champも、U2200でだめでU2000にre-entryしてもうまくいかず、途中で帰りました。いかにタフな大会かということです。

Openで7戦して4ポイント。今のところローカル組の「星」になってい

ます。ほかの低いセクションに出場組も苦戦しています。回りは皆GMやIMのタイトルホルダー、全米を代表する学生達に混じって座り、やっと彼らに存在を認めてもらえることになりました。同学年、少し下の全米チェス天才児たちは今までの大会でも認識してくれてはおりましたが、今回でもっと注目してくれるようになりました。

五日目

今日の2試合は付録のようなもので相手からレッスンを受けるようなものだと思っていましたが、往年のグランドマスターとの一戦は完全に晋作有利で、ドローとなって、思わず相手が晋作の手を両手でにぎり、「ドローにしてくれてありがとう」と喜ばれてしまいました。相手のタイトルがグランドマスターというだけで、勝てる試合をみすみす逃してしまうところに経験不足がでてしまいました。



レジェンドGMアナトリー・レインの対戦

全米トップのお兄ちゃんたちとは次回7月のビッグトーナメントワールドオープンで会おうと約束して別れました。

Nagoya Open 2022 Tournament Report

By Tyler Scott



Tyler is a Canadian English teacher who currently resides in Nagoya. Born in 1989, he learned the rules of chess from his father at a young age, later developing a passion for the game right before his

18th birthday. His interests outside of chess include fitness and linguistics.

On November 13th, 26 players from various parts of Japan gathered in Nagoya for the annual Nagoya Open tournament, including Japan's two highest rated players: CM Tran Thanh Tu-san and IM Kojima Shinya-san. Although in covid times this tournament has been reduced to just four games, it used to be seven games and span an entire weekend, making it the largest and most important tournament in Nagoya. The winners are as follows:
1st place: Tran Thanh Tu (3.5 pts)
2nd place: Kojima Shinya (3.5 pts)
3rd place: Akai Kiyotaka (3 pts)
Class A prize: Akai Kiyotaka (3 pts)
Class B prize: Reza Diba (2 pts)

In this article, I briefly analyze some interesting positions that occurred in several games before analyzing the high-level encounter between Kojima-san and Tu-san.

A missed opportunity

Sometimes when playing a much stronger player, we stumble upon a chance to get a serious advantage, but alas, do not find the best continuation, thereby allowing our adversary to get away with dodgy play. Such a situation characterized the following encounter:

Takahashi, H – Tran, T
Nagoya Open 2022 Nagoya (2)
English Opening [A10]

1.c4 Nc6 2.g3 d5!? This actually might not be as bad as it looks.

3.cxd5 Qxd5 4.Nf3 Qh5 5.d4 Bh3? Allowing White to advance the d-pawn with tempo here spells trouble.

6.d5! 0-0-0?



White missed a chance to get a sizeable advantage here. Can you see it?

7.Nc3? The best continuation was **7.Bxh3+ Qxh3 8.Qb3! Nb8** (8...Na5? is too dangerous because of **9.Qb5! b6 10.Nc3 e6 11.Qa6+ Kd7** (11...Kb8? 12.Nb5+-) **12.Bf4+-** with what looks like a winning initiative for White.) **9.Nc3 e6 10.Bf4±** White has a nice lead in development, and Black's knight looks goofy on b8.
7...e6 8.Bxh3 8.Qb3 is too late now, as Black can simply take the d5-pawn.

8...Qxh3 9.Ng5 Qg2 10.Rf1 Nh6 11.e4?

White goes on to lose quickly from here, due to his king's position.

11...exd5 12.exd5 Bb4 13.f3 Rhe8+ 14.Nge4 f5 15.Bxh6 fxe4 16.f4 Qxb2 17.Bxg7 Bxc3+ 18.Bxc3 Qxc3+ 19.Kf2 e3+ 20.Ke2 Nd4+

0-1

Failing to find the win

Sometimes we sense that a position is objectively winning for us, but cannot find the way forward. This happened to me in the following game:

Scott, T – Makino, M
Nagoya Open 2022 (4)
Vienna Game [C27]



White to play and win

I eventually ceded a draw to my opponent, after pressing the entire game, as I was low on time and did not want to risk losing another game. However, White has a winning shot here. Can you find it?

Nagoya Open 2022 Tournament Report

By Tyler Scott

30.Qg3 30.Bxh6! Is the winning move. I wanted to make this move work, but I didn't see my chance to do so here! **30...gxh6 31.Qg4!** The key move, threatening **Rxh6+**, followed by mate. **31...Rg8 32.Qf5!** The threatened discovery forces Black to lose an entire rook!
32...Rxf6 (32...Rcd8 33.Rxf6+ Kg7 34.Rf7+ +-) 33.hxg6+ Kg7 34.Qxc8+-

30...Qf7 31.Qh4 31.Bxh6! also works here, and is simpler: **31...gxh6 32.Qe3+-**

31...Qe7 32.b3 32.Bxh6! Once again, works. This motif is important to remember!

32...Bb5 33.Be3 Be8 34.Rg3 Qf7 35.Qg4 Bd7 36.Qh4 Be8 37.Rg6 Qe7 38.Rg3 Qf7 39.Qg4 Bd7 40.Qh4

½-½

The big showdown

Now for the game you've been waiting to see! Kojima-san and Tusan have played each other in many tournaments this year, and it is always exciting. Let's see how it went!

Kojima, S – Tran, T

Nagoya Open 2022 (4)

Nimzowitsch Defence [B00]

1.e4 Nc6 2.d4 d6!? Although this line is playable, I can't help but feel that playing it against an IM is rather cheeky!

3.d5 Nb8 4.c4 g6 5.h3 Bg7 6.Nf3 e5 7.Nc3 Ne7!? Black has an interesting version of the KID, some tempi down, but with the knight on e7 instead of f6, from where it can



Kojima Shinya and Tran Thanh Tu

support the ...f5 break. Perhaps the position of this knight is what provokes White's next move.

8.g4!? **8.Bd3** is probably how I would continue with White, but maybe Kojima-san didn't want to allow **8...f5** However, I think this move is premature, as White could continue with **9.exf5 gxf5 (9...Nxf5 10.0-0 0-0 11.Bg5±** the e4-square is an ongoing problem for Black in this structure.) **10.Bc2!?** when Black struggles to advance his central pawns, as doing so would create weaknesses on e4 or d4.

8...a5 9.Be2 Na6 10.Bg5 Nc5 11.Nd2 The position sort of resembles a Makagonov King's Indian, but with the bishop oddly placed on g5 and the knight oddly placed on e7.

11...h6 12.Be3 g5 Black has a clear plan of maneuvering his knight to f4 now, while White may be able to exploit the weakened f5 and h5 squares.

13.Nf1 Ng6 14.Ng3 Nf4 15.Qd2 Bd7

16.0-0 Bf6!? **16...a4** looks more logical to me.

17.Kb1 Qb8?!



Black's last couple of moves seem a bit strange, and now I think White could have exchanged minor pieces favorably. How would you continue here?

18.Nb5 18.Bxc5! dxc5 19.Nh5 trading off Black's strong knights, and leaving him with the poor bishops. **19...Nxf5 20.gxf5 Be7** preventing d6 from White **21.Bg4±** After exchanging the bishops, White's knight will dominate Black's dark square bishop.

Nagoya Open 2022 Tournament Report

By Tyler Scott



The tournament winners

18...b6 19.Bf1 a4 20.f3 Qc8 21.Rh2 Kf8 22.Qc2 h5 23.Rdd2? White, perhaps low on time, seems to be playing too slowly and carefully.

He could have won a pawn with **23.Bxf4 exf4 24.Nxh5 Be5 25.Na3!** After this careful move, it is hard to see how Black will develop his queenside play, but the bishop on e5 gives him a degree of compensation for the pawn deficit. (**25.h4!**? is tempting, but might be a mistake, as the knights becomes unstable. For instance **25...a3 26.Nxa3 (26.b3 Bxg4! 27.fxg4 Qxg4∞** looks at least fine for Black.) **26...Ba4!** (**26...Bxg4!**? also looks interesting) **27.b3?** (**27.Qe2** is best, but Black is at least a bit better after **27...Bxd1 28.Qxd1**) **27...Bxb3! 28.axb3 Rxa3-+** when suddenly White loses the queen or gets mated, for instance **29.Kc1**

Nxb3+

23...h4 24.Ne2 24.Nf5!?

24...Ra5 25.Nec3 Kg7 26.Bxc5 bxc5 27.Nxa4 White managed to grab a pawn, but in return, Black gets serious pressure against the white king's position. From here it seems tough for either side to make progress.

27...Qb7 28.Nac3 Be7 29.Rd1 Rha8 30.Rhd2 R8a6 31.b3 Qb8 32.a4 Rb6 33.Qc1 Bf8 34.Qc2 Rb7 35.Qc1 Be7 36.Qc2 Rb6 37.Qc1 Rb7 38.Qc2 Rb6

It isn't easy for either side to break through anywhere on the board, so a draw is the logical result.

½-½

Overall, this was another great tournament here in Nagoya, although I, for one, would like to see it return to a 2-day event, with a total of six or seven games. Maybe next year...?

タクティクス・ジム 解答

01 1.Nc3+

02 1.Ba6+

03 1.Bh7+

04 1.c3+

05 1.Rf1+

06 1.Nxc6

07 1.Bf5+

08 1...Nf3+

09 1...Kd7+

10 1...Nxd5

発展問題 1.Bxf6 Bxf6 2.Nd5 Qxd2
3.Nxf6+ Kh8 4.Rxd2 白の駒得です。も
しも黒が3...Kg7とすると、4.Nxe8+と
チェックしながらルークを取ること
ができます。

出題は 20 ～ 21 ページ

編集部

木下奏子

神田大吾

ごまめ

山内美加

原島もも

真鍋浩

山田明弘

(順不同)

発行

日本チェス連盟

(一般社団法人 National Chess Society of Japan)



本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載
および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。

ご意見・ご感想などはjapanchess.editor@gmail.comまでお寄せください。